

# 夢追人

## 福岡県版「現代の名工」

### 塗装技能士

#### 梶原與志夫さん



個性的な塗装を追求する。



'99年塗装コンクール

「機械塗装を否定することはできませんが、仕上げの段階で二工程、手作業塗装を組み込むことで質感の高い製品にすることができると思います。」こう語るのは、今年の「福岡県版現代の名工」の一人、梶原與志夫さんだ。梶原さんは塗装の優秀技能者として1999年11月30日に受賞したばかり。木地着色、下塗り、中塗り、仕上げまでを統括して完成させる塗装技術は抜群で、業界の第一人者である。

量産家具の時代になり、ロボットによる塗装で代表されるように機械塗装が一般的になってきているが、近年手作業での个性的な塗装が見直されつつある。インテリアのスパイスとして、家具に様々な表情を持たせるの

は塗装技術だからだ。

梶原さんはいう。「機械塗装によって画一的で特徴のない雰囲気を持つ製品が多く出回るようになっていきます。でもデザインや素材が千差万別であるように、それらに合った表情を出す塗装も様々です。味わいのある家具には塗装技能士の経験と技術が是非とも必要です。」

なぜだろうか。「職人は、デザイン、木材の木目、材質に応じてステイン（木材繊維染色用の染料）の混ぜ合わせや濃度を調整します。塗りや吹きつけの技術もそうですが、そこは職人の経験、感覚に頼る部分が大きいです」ところが、現在の不況を反映して、リストラで職場を去る職人が少なくない。梶原さんは、「経営者は各企業にいる塗

装職人をもっと大切にしてほしい。かけがえのない存在だから。」と訴える。

塗装職人育成にも力を注いでいる。昭和55年以来、大川塗装振興会委員長の要職も務めている。毎年塗装コンクールを主催している。また40年のキャリアを持つ技能士として各企業を巡回指導もする。それに昭和58年からは塗装技能検定委員も兼任。その合格者は業界の主力として活躍中である。

梶原さんはこう付け加えた。「21世紀は再び職人の時代が来ると思います。」